



NAGASAKI NISHI INFORMATION

第290号

令和5年 9 月 5 日 発行

編集責任者 初 村 一 郎

http://www.nagasaki-nishi.ed.jp

信頼され続ける学校 学びがいのある学校 居場所のある学校

校長室から

「運動会・西高祭」

校長 初村 一郎

2年前の1月11日「成人の日」。この日の長崎新聞の1面に心を打たれ、何度も読み返してはスクラップしていました。

ダウン症の史子さん（20）は、家族に愛され、地域に支えられ、人生の門出を迎えることに。母、夏代さん（59）は感慨深げに「この子のおかげでいろんな縁をもらった。本当にうれしい」と。

実は、私の娘も障害があって同じような境遇を辿ってきたこともあり、目に留まってしまったのですが、運動会・西高祭に相応しい内容なので、ぜひ皆さんに読んでもらいたいと思い、ここで紹介したいと思います。

夏代さんは、生まれたばかりの娘の顔を見て2人の兄とは「違う」と感じた。ダウン症かもしれない。不安に押しつぶされ、授乳室に行くのさえつらかった。世間からどんな風に見られるのだろうか、家族に迷惑をかけてしまう、私のせい、きっと夢だー。

1カ月後の検診で告知を受けた。娘への愛情は薄れはしない。でも素直に障害を受け入れられなかった。泣き崩れたその日の夜。夫の言葉に救われた。「うちに天使の生まれたとさ。大丈夫」。将来を悲観して泣くのは、この日を最後にやめた。

娘への冷たい視線や心無い言葉に家族で傷ついた経験もある。そんなときはダウン症の家族らでつくる「バンビの会」に参加。悲しみや不安を吐き出すことで心を保った。史子さんは2歳で歩き、言葉を発したのは3歳。成長はゆっくりだけれども、できないことを嘆くのではなく、できたことを喜んだ。史子さんの笑顔は周りを変えていった。

地域にも支えられた。小学校は兄たちが通った市立愛宕小に入学。特別支援学級を新設してもらい、校長自らが教室の壁を明るく塗り直して歓迎してくれた。

夏代さんには忘れられないエピソードがある。5年生の時の運動会。走るのが苦手な史子さんはそれまで、学級対抗リレーに参加してもわずかな距離を走るだけだった。でもこの年、子どもたちが話し合い、史子さんもみんなと同じ距離を走ることに。どんなに遅くたっていい。勝敗を超えた優しさがそこにあった。娘の周りには「幸せな社会」が広がっていた。

中学、高校は長崎大附属特別支援学校に進学。卒業後は障害者就労支援施設に通う。「臨機応変」は難しいが「こつこつ」は得意で作業も丁寧だ。職員や友人らと楽しく過ごす日々。「行きたくない」と言い出す日は、まだ1日もない。

「大人の仲間入り」を家族も祝福する。次男（26）は「史子と飲む」とチョコレート味のお酒をプレゼント。長男（27）は大みそかに、史子さんが好きなアイドルグループ「嵐」の生配信ライブを視聴できるよう環境を整えてくれた。11日には夏代さんが成人の時の振り袖を着て、髪もきれいに整え、家族写真を撮る予定。着飾った娘の姿を思い、うれしさが込み上げ、夏代さんの口から漏れた。「娘を産んで

よかった」

取材中、夏代さんが席を外した時、史子さんにいくつかの質問をした。恥ずかしがり、はにかむばかりだったが、一つだけ、しっかりと答えてくれた。「家族はみんな仲良しですか」「うん。大好き」そう言うと、また恥ずかしがり、両手で顔を覆った。

生徒が自分たちで話し合い、自らの手で、「できないことを嘆くのではなくできることを喜び合い、勝敗を超えた友情で固く結ばれる」立派な運動会・西高祭を創り上げ伝統を大切にしていきたいと思います。

九州合唱コンクール長崎県大会 7月17日（月）

アルカスSASEBOにて、第78回九州合唱コンクール長崎県大会が行われました。長崎西高校音楽部は今年度は混声合唱に挑戦し、自由曲に難曲「44わのべにすずめ」を選びました。結果は銅賞となり、九州大会への出場はかないませんでした。自分たちで選んだ曲で大会に挑み、ステージではこれまでの練習の成果を十分に発揮することができました。今後も、聴いてくださる人の心に残る演奏をお届けできるよう、2年生を中心とした新体制で頑張りたいと思います。応援ありがとうございました。【音楽部顧問 溝上 美由希】

長崎県吹奏楽コンクール 7月23日（日）

アルカスSASEBOで開催された第68回吹奏楽コンクールに、54名で出演しました。高等学校の部には40校が出演12分の制限時間の中、課題曲、マーチ「ペガサスの夢」、自由曲、「GR（ジャイアントロボ）よりシンフォニックセレクション」の2曲を演奏しました。自由曲の原曲は19分ほどあり、8分45秒くらいになるよう、学生指揮が曲を研究し、2月ころから練習してきました。銀賞の評価と、7名の審査員の講評からこれからの課題を見つけ、3年生引退後の新体制で、また西高ブラスを受け継いでいきます。

【吹奏楽部顧問 麻生 今日子】

第70回NHK杯全国高校放送コンテスト

7月25日（火）から27日（木）の3日間にわたって、第70回NHK杯全国高校放送コンテストが国立オリンピック記念青少年総合センター、NHKホールで行われました。本校からは、県大会を勝ち抜いたテレビドキュメント1作品、ラジオドキュメント1作品、テレビドラマ1作品、ラジオドラマ1作品、アナウンス部門で宗瑞徳さんが出場しました。残念ながら入賞することはできませんでしたが、レベルの高い大会で発表交流できたことは貴重な体験になったと思います。3年生から技術を受け継ぎ、1、2年生で挑んだ大きな舞台でした。来年度もまた挑戦し、大きな花を咲かせてくれることと思います。

【放送部顧問 樋渡 彩音】



西高の日 SSH校内研究発表会 7月25日（火）

開会行事の後、3年生による英語を用いたポスター発表が行われました。ブリックホール全体を6つの会場に分けて行われた合計74本の研究発表に対して県内の35名のALTの先生方から審査をしていただき、ALTからの英語による質疑にも即時的に対応するなど、培われた英語運用能力がいたるところで発揮されました。閉会式では、ALTのセリエン先生、SSH運営指導委員の長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科の倉橋拓也教授より講評をいただきました。閉会式後に、これまで6年間本校の英語教育やSSHの指導に尽力してくださったセリエン先生の離任式がとり行われました。【SSH企画推進部主任 藤原 秀樹】



九州大学オープンキャンパス

九州大学オープンキャンパスは8月5日（土）～8月7日（月）に行われ、78回生延べ119名が参加しました。学部ごとに日程が異なっており、各学部・学科のプログラムに参加したり、キャンパス内を見学したりと、時間いっぱいまで積極的に行動していました。10月に文理選択が迫る中、2日間の参加者もいるなど、文理の選択や学部学科の決定に迷っている生徒にはとても参考になったようです。これを機に、自分の進路について真剣に考え、進路実現に向けて今後一層努力してくれることを期待しています。最後に、今回の行事に関してご協力いただいたすべての方に、感謝申し上げます。



【第1学年 進路指導部 山本 禎明】

全国高等学校総合文化祭関連 文化部報告

《吹奏楽部》

長崎県代表がんばらんば県南吹奏楽団で、昨年12月のオーディションで選ばれた県南地区12校70名と演奏してきました（本校からは3年生3名2年生1名で参加）。7月31日早朝にバスで出発、15時からリハ、交流会を経てホテルに着いたのは22時過ぎでした。半年の間の合同練習で仲間意識も高まり、翌8月1日2番目の出番で、エルサレム讃歌、エルクンバンチェロの2曲を気持ちよく披露。交流会では長崎県がクイズ大会で1位になり思わぬごほうびも！1泊2日の充実した総文祭でした。

【吹奏楽部顧問 麻生 今日子】

《地学部》

7月29日～31日の日程で行われた全国総文祭自然科学部門に、本校地学部の梅野正さん（3年）と赤木銀次朗さん（2年）が長崎県代表として参加しました。「長崎市浦上川におけるヘドロの堆積状況について」のテーマで研究成果を発表しました。入賞はなりませんが、全国の発表を聞き、大いに刺激を受けた全国総文祭でした。

【地学部顧問 藤原 秀樹】



《書道部》

8月2・3日に行われた全国高等学校総合文化祭鹿児島大会に、3年中島鈴香さんが参加しました。約半年をかけて制作した作品は、縦約240cm×横60cmの作品です。多字数の作品なので、統一感が出るよう配置等も意識して、切れ味鋭く表現しています。また、交流会では、他県の生徒と作品鑑賞を行うなど、多くの書に触れ、学ぶことができた大会でした。

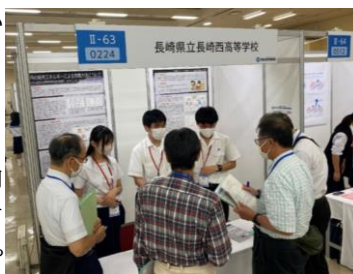
【書道部顧問 嶋田 弘子】



スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会

8月9日、10日の2日間の日程で「令和5年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」が神戸市で実施され、本校物理部による研究発表「月の自然エネルギーによる発電方法について」が、ポスター発表賞を受賞しました。物理・工学部門で発表を行った全国40校の中で3位に相当します。

大会当日は、栗原幹人さん（3年）、的野祥人さん（3年）、北尾早来紗さん（3年）の3名の部員が、専門家の審査員や大会参加校の高校生に対して自分たちの研究内容をわかりやすく伝え、その場で質問や疑問に対応していました。1年半をかけて深めてきた研究が、このような場で高く評価していただけたことで、生徒の自信や達成感につながったと感じています。



【物理部顧問 田中 潤】

令和5年度 全国高等学校総合体育大会

《女子バスケットボール部》

私たちは7月25日から北海道で行われたインターハイに出場しました。1回戦は山口県代表の徳山商工高校に79対66で勝利し、2回戦は宮城県代表の聖和学園高等学校に65対88で敗退しました。目標である全国ベスト4を達成することは出来ませんでしたが、多くの課題や今の私たちが変わることによって全国や県内で勝利に繋がることに気づくことが出来ました。いつも私たちをすぐそばで支え、今回も遠くまで足を運んで応援に来てくださった保護者の皆さん、熱心にご指導して下さる先生方、そして全校生徒の皆さんの応援がとても力になりました。本校バスケットボール部員としての自覚と応援して下さる全ての方々への感謝の気持ちを持ち続け、冬のウィンターカップ県予選、本戦に向けて全力で練習していきます。応援ありがとうございます。

【女子バスケットボール部主将 清水 理沙】

《カヌー部》

カヌー部は、8月3日から6日まで山形県西川町月山湖（がっさんこ）で行われた、全国高校総合体育大会カヌー競技に出場してきました。出場した種目は、女子カヤックのシングル・ペア・フォアです。すべての種目で予選を突破して、中でも500mのフォア（神田怜・永川蓮菜・久松愛月・北川萌菜）は決勝9位という成績を収めることができました。沢山のトンボが飛び交う自然豊かな場所で、民宿の方々の温かいサポートもあり、選手一同実力を発揮することができました。これからも周りの方々への感謝の気持ちをもって、精進していきます。今後もカヌー部の応援をよろしくお願いします。



【カヌー部顧問 窪田 弘毅】

オーストラリア語学研修

7月30日から8月6日まで、2年生の希望者58名が、オーストラリア語学研修へ行ってきました。晴天に恵まれた到着初日及び2日目午前中はマッコーリー大学や、オペラハウスを見学し、異国の大学生活や文化に直に触れました。2日目午後からはホストファミリーと対面しホームステイを開始、3日目からは、ホームステイ先から現地の高校へと通いました。高校ではホームステイ先でも使える英会話を学んだり、イギリス文化の残る Morning Tea Time を楽しんだり、バディ（現地担当生徒）の授業に参加したりしました。日本で準備したプレゼンテーションもやり遂げました。最終日のシドニー市内班別研修も楽しめたようです。日を追う毎に、ヒアリングにも慣れ、積極的に会話を楽しもうとする姿も見られました。

本研修で得たことを糧に、今後も積極的に学ぶ姿勢を持ち続け活躍することを期待します。

【2学年副主任 荒川 育代】

